



Sun™ Remote System Control (RSC) 2.2.3 リリース情報

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-2286-10
2005 年 2 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Enterprise, OpenBoot, SunSwift, SunVTS, JumpStart, および SunSolve Online は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれには限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun™ Remote System Control (RSC) 2.2.3 Release Notes Part No: 819-2022-10 Revision A
-----	--



Adobe PostScript

目次

- 1. Sun Remote System Control (RSC) 2.2.3 リリース情報 1
 - RSC 2.2.3 の新機能 1
 - Sun Remote System Control
 - ソフトウェアをインストールする前に 2
 - Sun Fire V480、V880、V490、および V890 サーバーでの RSC 2.2.3 のサポート 4
 - OpenBoot PROM 拡張機能 4
 - RSC の一般的な問題 5
 - RSC または SC カードの取り外しと取り付け 5
 - 警告メッセージの遅延 6
 - alerts.html に誤った情報が記載されている 6
 - diag-switch? が true に設定されていると、起動時に rsc-console が tip 接続に切り替わる 6
 - RSC bootmode -u コマンドでコンソールを切り替えられない 6
 - rsc-console モードで obdiag を実行すると予期しない動作が発生する 7
 - telnet セッション数が最大値に達すると「SetSockOpt: Invalid argument」メッセージが表示される 7
 - SunVTS の実行時に loghistory でディスクエラーが報告されるが、SunVTS または Solaris ソフトウェアではエラーが報告されない 8
 - Sun Fire V480、V880、V490、および V890 サーバーに固有の RSC の問題 8

OpenBoot PROM 拡張診断がオンであるかキースイッチが
Diagnostics の位置にあるとき、RSC コンソールがシステムコンソール
に切り替わり、警告は表示されない 8

起動時の LED の動作 8

Sun Fire 280R サーバーに固有の RSC の問題 9

その他の RSC の警告 9

電源投入時に不正なドライブ障害が報告される 9

Sun Enterprise 250 サーバーに固有の RSC の問題 10

RSC ユーザーアカウントの増設がサポートされていない 10

`serial_hw_handshake` 変数を変更した場合はシステムを再起動する必要
がある 10

GUI で電源に関する警告のインデックスが誤って表示される 11

マニュアルの問題 11

Sun Remote System Control (RSC)

2.2.3 リリース情報

このリリース情報では、Sun™ Remote System Control (RSC) 2.2.3 ハードウェアおよびソフトウェアに関するいくつかの問題について説明します。RSC の使用の詳細については、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』を参照してください。

RSC 2.2.3 の新機能

RSC 2.2.3 ハードウェアおよびソフトウェアには、次のような新機能があります。

- RSC 2.2.3 ソフトウェアでは、更新されたシステムコントローラ (SC) カードを搭載した Sun Fire™ V480、V880、V490、および V890 サーバーがサポートされています。RSC 2.2.3 とシステムコントローラカードの動作の詳細については、4 ページの「Sun Fire V480、V880、V490、および V890 サーバーでの RSC 2.2.3 のサポート」を参照してください。
- RSC のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用するには、更新されたバージョンの Java™ Runtime Environment、つまり Java 2 Standard Edition (J2SE) Runtime Environment バージョン 1.3.0_02 以上が必要です。次の Web サイトから、適切なバージョンをダウンロードできます。
 - Solaris — <http://www.sun.com/solaris/java>
 - Windows — <http://java.sun.com/getjava>

次の機能は、RSC 2.2 ソフトウェアの新機能です。これらの機能は、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』には記載されていません。

- Microsoft Windows 2000 および Windows XP オペレーティングシステムでのクライアントのサポートが追加されました。
- Sun Fire V480 および V490 サーバーには、ハードウェア機能として、ロケータ LED がシステムの前面パネルと背面パネルに搭載されています。これらの LED の状態は RSC ソフトウェアから切り替えることができ、ほかのサーバーとともにラックに実装されている個々のシステムを特定することができます。
- RSC 2.2.3 ソフトウェアでは、最大 16 の RSC ユーザーアカウントをサポートするようになりました。最大 10 ユーザーが同時にログインできます。ただし、ユーザーアカウント数は増えてきましたが、1 台のサーバーで同時に実行できる telnet または GUI ログインセッション数の制限は変わらず、最大 5 セッションです。

Sun Remote System Control ソフトウェアをインストールする前に

RSC ソフトウェアは、ご使用のオペレーティングシステムに付属の Solaris サプリメント CD のデフォルトインストールセットの一部として収録されています。RSC サーバーコンポーネントは、Solaris™ オペレーティングシステムが動作している互換性のあるサーバーにのみインストールしてください。クライアントソフトウェアは、Solaris または Windows オペレーティングシステムの要件を満たす任意のコンピュータにインストールできます。RSC を使用するには、RSC ソフトウェアをインストールして構成する必要があります。

重要: RSC サーバーソフトウェアを以前のバージョンからアップグレードする場合、または RSC ソフトウェアを再インストールする場合は、事前にサーバーにスーパーユーザーでログインし、次のコマンドを使用して構成データをバックアップしてください。

```
# rscadm show > 遠隔ファイル名
# rscadm usershow >> 遠隔ファイル名
```

バックアップファイルには、RSC で制御するサーバーの名前を含むわかりやすいファイル名を付けてください。インストール後、必要に応じてこのファイルを参照して構成の設定を復元できます。バージョン 2.2.3 の RSC サーバーソフトウェアをインストールした後で旧バージョンに戻すことはお勧めしませんが、旧バージョンに戻した場合には、構成情報を復元し、サーバーの電源を再投入する必要があります。

RSC 2.2.3 サーバーソフトウェアパッケージ (SUNWrsc) は次の Sun サーバーにインストールできます。

- Solaris 8 2/04 オペレーティングシステムまたは Solaris 9 4/04 オペレーティングシステム、または互換性のあるリリースが動作している Sun Fire V890 サーバー
- Solaris 8 2/04 オペレーティングシステムまたは Solaris 9 4/04 オペレーティングシステム、または互換性のあるリリースが動作している Sun Fire V490 サーバー
- Solaris 8 10/01 オペレーティングシステム、または互換性のあるリリースが動作している Sun Fire V480 サーバー
- Solaris 8 7/01 オペレーティングシステム、または互換性のあるリリースが動作している Sun Fire V880 サーバー
- Solaris 8 1/01 オペレーティングシステム、または互換性のあるリリースが動作している Sun Fire 280R サーバー
- 次のいずれかのオペレーティングシステムが動作している Sun Enterprise™ 250 サーバー
 - Solaris 2.6
 - Solaris 7
 - Solaris 8

RSC 2.2.3 クライアントソフトウェアパッケージは次のコンピュータにインストールできます。

- Solaris 2.6、Solaris 7、Solaris 8、または Solaris 9 オペレーティングシステムが動作しているその他の任意のコンピュータ。パッケージは SUNWrscj (GUI) と SUNWrscd (マニュアル) です。
- 次のいずれかの Microsoft Windows オペレーティングシステムが動作している任意のコンピュータ
 - Windows 98
 - Windows 2000
 - Windows NT 4.0
 - Windows XP

RSC GUI とマニュアルのインストールに使用する Microsoft Windows オペレーティングシステム用のファイルは SunRsc.exe です。

- クライアントコンピュータで RSC 2.2.3 ソフトウェアを実行するには、Java 2 Standard Edition (J2SE) Runtime Environment バージョン 1.3.0_02 以降の 1.3.x バージョンが必要です。RSC 2.2.3 ソフトウェアは、J2EE Runtime Environment バージョン 1.2.x を使用していると動作しません。次のいずれかの Web サイトから適切なバージョンをダウンロードできます。
 - Solaris — <http://www.sun.com/solaris/java>
 - Windows — <http://java.sun.com/getjava>

Solaris オペレーティングシステムへのインストールの場合、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』は /opt/rsc/doc/locale/pdf/user_guide.pdf にあります。Windows オペレーティングシステムへのインストールの場合、ユーザーマニュアルは C:\Program Files\Sun Microsystems\Remote System Control\doc\locale\pdf\user_guide.pdf にあります。

Sun Fire V480、V880、V490、および V890 サーバーでの RSC 2.2.3 のサポート

Sun Fire V490 および V890 サーバーと一部の V480 および V880 サーバーでは、Remote System Controller (RSC) カードが新しいシステムコントローラ (SC) カードに置き換えられています。どちらのカードも同じ RSC 2.2.3 ソフトウェアを実行しますが、重要な機能上の相違がいくつかあります。

- SC カードにはシステムボード上のモデムがありません。RSC 2.2.3 ソフトウェアのモデム/ポケベルコマンドは、SC カードでは動作しません。同様に、モデム/ポケベル構成変数も SC カードでは機能しません。
- SC カードにはバックアップバッテリーがありません。サーバーから直接電力を受け取り、サーバーが AC 電源コンセントに接続されている限り、サーバーの電源が切れているときやスタンバイ状態のときでも動作します。

これらのハードウェアの変更をサポートするバージョンに RSC ソフトウェアを更新するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/servers/rsc.html>

SC ハードウェアでの RSC 2.2.3 ソフトウェアの使用についての詳細は、ご使用のサーバーの管理マニュアルまたはユーザーマニュアルを参照してください。このマニュアルは、サーバーに付属の Documentation CD に収録されています。

OpenBoot PROM 拡張機能

Sun Fire V490 および V890 サーバーには、OpenBoot™ PROM バージョン 4.15 が搭載されています。このバージョンの OpenBoot PROM では、標準 (デフォルト) 構成が新しくなり、拡張診断を含むようになりました。これらの拡張診断により RSC の動作の一部が変化します。これらの診断の詳細については、ご使用のサーバーに付属の Sun Fire V490 または V890 Documentation CD に収録されている『OpenBoot PROM Enhancements for Diagnostic Operation』を参照してください。

RSC の一般的な問題

この節では、Sun Enterprise 250、Sun Fire 280R、Sun Fire V480、Sun Fire V880、Sun Fire V490、および Sun Fire V890 サーバー上で動作する RSC 2.2.3 ソフトウェアに影響する問題について説明します。

注 – バッテリー、ポケベル、およびモデムに関連する問題は、Sun Fire V490 および V890 サーバー、または一部の Sun Fire V480 および V880 サーバーには該当しません。これらのサーバーは、RSC カードではなくシステムコントローラ (SC) カードを使用しているためです。SC カードには、シリアルおよびネットワーク接続用のコネクタがあります。RSC カードには、シリアル、モデム、およびネットワーク接続用のコネクタがあります。ご使用のサーバーに SC カードと RSC カードのどちらが搭載されているかを確認するには、V480 および V880 サーバーハードウェアに含まれているハードコピー版の各プラットフォームの『リリース情報』を参照してください。

RSC または SC カードの取り外しと取り付け



注意 – システムの AC 電源コードを接続したまま SC カードの取り外しまたは取り付けを行うと、システムまたは SC カードが故障することがあります。SC カードの取り外しまたは取り付けは、必ず購入先の技術者が行う必要があります。この作業を行う場合は、購入先の技術者にお問い合わせください。

ご使用のサーバーのサービスマニュアルにある手順に従って SC カードの取り外しまたは取り付けを行う前に、次の手順を実行して必ずシステムの AC 電源を完全に切断してください。

1. システムをシャットダウンして停止させます。
2. システムに `ok` プロンプトが表示されている状態で、キースイッチを Off の位置にします。
この時点では、まだシステムのスタンバイ電源が入った状態です。
3. 背面パネルのソケットからすべての AC 電源コードを外します。
これで、システムのスタンバイ電源の電圧がなくなります。
4. サービスマニュアルに記載されている必要な手順に従います。

警告メッセージの遅延

RSC 変数 `page_enabled` と `mail_enabled` が `true` に設定されている場合、短時間に複数の警告メッセージが生成されると、最初のメッセージはただちに配信されますが、そのときに発行された後続のメッセージの配信が 3 ~ 4 分遅延します。

`alerts.html` に誤った情報が記載されている

`page_info1` または `page_info2` フィールドを構成するとき、ポケベル電話番号の指定には、任意の数字または英数字記号の #、@、および、(コンマ) を使用できますが、個人識別番号の指定には数字 (0 ~ 9) しか使用できません。RSC GUI のオンラインヘルプにあるこの機能に関する説明が誤っています。ポケベルと連動するように RSC を構成する方法の詳細については、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』を参照してください。

`diag-switch?` が `true` に設定されていると、起動時に `rsc-console` が `tip` 接続に切り替わる

`diag-switch?` が `true` に設定されている場合、`bootmode -u` コマンドを使用してサーバーを再起動すると、以前にコンソールを RSC に切り替えていても、Solaris ソフトウェアの再起動後に `rsc-console` がシリアル (`tip`) 接続に戻ります。

この状況が発生した場合は、再起動完了後にもう一度手動でコンソール出力を RSC に切り替えてください。詳細については、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』を参照してください。

RSC `bootmode -u` コマンドでコンソールを切り替えられない

この間欠的な問題は、OpenBoot PROM バージョン 4.4.6 が動作する Sun Fire V880 サーバーで発生しています。`bootmode -u` コマンドでコンソールを RSC に切り替えられないことがあります。この状況が発生した場合は、`resetrsc` コマンドを使用してください。

rsc-console モードで obdiag を実行すると 予期しない動作が発生する

rsc-console モードに設定されているコンソールで obdiag を実行すると、次の動作が発生することがあります。

- obdiag で rsc-control テストの実行時に RSC からログアウトします。
- obdiag でシリアルテストの実行時にサーバーのシリアル接続に予期しない文字列が送信されます。

これらの動作が発生しないようにするには、システムコンソールが RSC に設定されていない状態で obdiag を実行してください。

telnet セッション数が最大値に達すると 「SetSockOpt: Invalid argument」 メッセージが表示される

RSC で許容される最大数の telnet セッションを実行している場合、次のようなメッセージが表示されることがあります。

```
telnet myserver
Trying 123.234.245.256...
Connected to myserver.
Escape character is '^]'.
SetSockOpt: Invalid argument
Connection to myserver closed by foreign host.
```

このメッセージが表示された場合は、RSC で実行する telnet セッションの数を減らしてください。

SunVTS の実行時に loghistory でディスクエラーが報告されるが、SunVTS または Solaris ソフトウェアではエラーが報告されない

SunVTS ソフトウェアと RSC ソフトウェアを同時に実行している場合、loghistory コマンドを使用すると、SunVTS テストでは検出されないディスクエラーが報告されることがあります。このエラーは、テスト実行時に SunVTS が RSC の監視を中断できないことが原因で発生します。RSC は、各状態の変化をディスクエラーとして報告します。SunVTS でテストを実行していないときは、このようなメッセージは表示されません。

Sun Fire V480、V880、V490、および V890 サーバーに固有の RSC の問題

この節では、Sun Fire V480、V880、V490、および V890 サーバー上で動作する RSC 2.2.3 ソフトウェアに影響する問題について説明します。

OpenBoot PROM 拡張診断がオンであるか キースイッチが Diagnostics の位置にあるとき、 RSC コンソールがシステムコンソールに 切り替わり、警告は表示されない

OpenBoot PROM 拡張診断が有効の場合 (デフォルトでは有効)、rsc-console がシステムコンソールに送信され、警告は表示されません。RSC コンソールは RSC コマンドに応答していないように見える可能性があります。RSC ソフトウェアを使用していて、システムのキースイッチが Diagnostics の位置に設定されている場合も、この動作が発生することがあります。

起動時の LED の動作

(Sun Fire V490 および Sun Fire V890 サーバーのみ)

Sun Fire V490 および V890 サーバーでは、起動時に電源 LED が点滅しません。この LED は、ほかの Sun サーバー製品では点滅します。Sun Fire V490 および V890 サーバーの LED は、起動時に点灯したままの状態になります。

Sun Fire 280R サーバーに固有の RSC の問題

この節では、Sun Fire 280R サーバー上で動作する RSC 2.2.3 ソフトウェアに影響する問題についてのみ説明します。Sun Fire 280R サーバーに関するその他の問題については、『Sun Fire 280R サーバーご使用にあたって』を参照してください。

その他の RSC の警告

Sun Fire 280R サーバーで、電源の中断後に RSC カードがバッテリーの使用を開始したとき、RSC ソフトウェアは次の警告を生成します。

```
00060012: "RSC operating on battery power."
```

RSC からホストシステムがシャットダウンされた場合、RSC ソフトウェアは次の警告を生成します。メッセージはログ履歴に表示されます。

```
00040000: "RSC Request to power off host."
```

```
00040029: "Host system has shut down."
```

キースイッチまたは **OpenBoot PROM** `poweroff` コマンドを使用してシステムをシャットダウンした場合は、警告 **00040029** だけが表示されます。

これらの警告は、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』には記載されていません。

電源投入時に不正なドライブ障害が報告される

システムの電源投入時に、不正な内蔵ドライブの障害が RSC ログ履歴に記録される可能性があります。

Solaris オペレーティングシステムが正常に起動した場合は、RSC からこのエラーが報告されても無視してください。通常、この間違っただけの障害は再び発生することはありません。起動処理後に、`fsck` ユーティリティを使用してディスクを検査できます。

注 – Solaris オペレーティングシステムからディスクドライブのエラーメッセージが報告された場合は、実際にディスクドライブにエラーが発生しています。

ok プロンプトでディスクの障害が報告され、Solaris オペレーティングシステムが正常に起動しない場合は、ディスクドライブに問題が発生している可能性があります。『Sun Fire 280R Server Service Manual』の「Diagnostics, Monitoring, and Troubleshooting」の章の記述に従って、ディスクドライブの OpenBoot Diagnostics テストを実行してください。

Sun Enterprise 250 サーバーに固有の RSC の問題

この節では、Sun Enterprise 250 サーバー上で動作する RSC 2.2.3 ソフトウェアに影響する問題について説明します。Sun Enterprise 250 サーバーに関するその他の問題については、『Sun Enterprise 250 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

RSC ユーザーアカウントの増設がサポートされていない

RSC 2.2.3 ソフトウェアでは、最大 16 の RSC ユーザーアカウントをサポートします。ただし、Sun Enterprise 250 サーバーでは、ハードウェアの制限により RSC ユーザーアカウント数は変わらず最大 4 つです。

システムの input-device および output-device 設定を ttya にリセットします。次にシステムを再起動し、システムのローカルコンソールまたはターミナルを使用してシステムにアクセスして、boot -s コマンドを直接実行します。

serial_hw_handshake 変数を変更した場合はシステムを再起動する必要がある

RSC 構成変数 serial_hw_handshake の変更を有効にするには、サーバーを再起動する必要があります。RSC グラフィカルユーザーインターフェースの「ハードウェアハンドシェイク使用可能」チェックボックスの設定に関しても同様です。この制限はマニュアルには記載されていません。

GUI で電源に関する警告のインデックスが誤って表示される

Sun Enterprise 250 では電源に 0 と 1 の番号が付いていますが、RSC グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) でイベントログと警告に電源 1 および電源 2 と表示されます。

マニュアルの問題

現行の『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』では、Sun Fire 480R および Sun Fire 880 サーバーをサポートしていると記述されています。これらのモデル番号は、誤りです。正しくは、Sun Fire V480 および Sun Fire V880 サーバーがサポートされています。

